

# 慈雲

24号

2012/11

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺  
慈雲会  
〒604-8214  
京都市中京区新町通蛸薬師下る  
百足屋町375番地  
TEL/FAX (075)221-4616  
zuirenji@nifty.com  
http://www.zuirenji.net/  
SinsyuuOotaniha  
JiunzanZuirenji  
Jiunkai



沙門悪人  
幻惑呪術  
令此悪王  
多日不死

## 【観経】の言葉

沙門しゃもんは悪人あくにんなり。幻惑げんわくの呪術じゆじゆつをもって、この悪王あくおうをして多日たにち、死せざらしむ。

ここはアジャセ王が母イダイケを賊と一緒だと罵ったこと（前回）に続いて、ビンバシヤラ王の為に空からやってきて説法をした仏弟子（沙門）に対して「悪人」と罵り、さらに王のことを「悪王」と呼んでいるのです。悪とは本来、社会的・道徳的に反する行為を指します。しかし、沙門も王もそのようなことはしていません。アジャセにとつて都合が悪く、悪王といふだけのことです。私たちは、自分にとって都合のない人や物事をいとも簡単に悪と決め付けてしまいます。しかし、実際は生れ付いての悪人もいなければ生れ付いての善人も存在しません。いかに人間は、自分を中心に人を裁いているかを知らされます。

今回は正信偈の

親見諸仏浄土因  
国土人天之善悪

の二句を学びたいと思います。

諸仏の浄土の因、  
国土人天之善悪を親見して、

と読みます。

阿弥陀仏がまだ修行中の身である法蔵菩薩だった時のことです。師匠の世自在王仏の説法を聞いて大菩提心を起し、悩み苦しむ衆生を救いたいと誓われました。そして、そのためにさらに経法を説いてくださいと師匠に頼むのです。しかし、世自在王仏は、それはあなた自身が知るべきものです」と言われました。

法蔵菩薩は一時突き放された感じがしましたが、よく考えてみれば、これはやはり自分の力で為せることではないと思ひ、「いいえ、それはとても深く広いことなので私の境涯ではありません」と返答されます。

そして、世自在王仏は法蔵菩薩の意志と願いが固いことを知り、諸仏の浄土とそこに住む人や天の善悪を懇切に目の前に示されるのです。

その数は經典『説無量寿経』によれば二百一十億にも上ります。法蔵菩薩はそれらの一つひとつをしっかりと見ていききました。親見（せけん）と云う字は見慣れませんが、しっかりと見る、または見そなわすという意味があります。

諸仏の浄土とはたとえば、塔をたくさん建てた者がいくことが出来るとか、親に孝行した者のみがいける国などです。またその様子も七宝で出来た国やすべて蓮で出来た国などさまざまです。

それらすべてを見尽くされた法蔵菩薩はこの上ないすぐれた本願を發されました。その願いはいつでも・だれでも・どこでも救われる道、そのような浄土を建てたいということです。こんな無茶な願いがあるでしょうか。諸仏のお浄土のようにそこに生まれるための条件がなにひとつないのですから。しかし、考えてみますとそれだけ法蔵菩薩が人間界をご覧になる見方が徹底していると言わねばなりません。親鸞聖人は「二切凡小、一切時の中に、貪愛の心常によく善心を汚し、瞋憎の心常によく法財を焼く。急作急修して頭燃を灸うがごとくすれども、すべて雑毒雑修の善と名づく。また虚仮諂偽の行と名づく。真実の業と名づけざるなり。この虚仮雑毒の善をもって無量光明土に生まれんと欲する、これかならず不可なり。」『教行信証』信巻 聖典(228頁)

凡夫である私たちはいつも貪りの心から善心を汚し、怒りの心から大切なものを焼いている。あわてて頭にかかった火の粉を払うようにしても混じりけのある善であり、偽りの行でしかない。そのような善や行でお浄土に生まれることは不可能である。

と親鸞聖人は言われているのである。そのような衆生が目当てです。

### 推進員養成講座の感想

本山指定 推進員養成講座」が、先日十月六日に行われました。これにご参加頂いた瑞蓮寺門徒様より、感想を頂きましたので、ご紹介させていただきます。

河合 忠芳

平成二十四年十月六日、何も分からなままに「推進員養成講座」・第一回目を受講致しました。

推進員」って何？ 何をする人」なの？ 私に受ける資格はあるの？ そんな「？」「？」だらけの「助教初心者」の私です。

そもそもお寺さんとかかわりも、昨年の五月に母親の不幸がきっかけで、瑞蓮寺さんにご縁を頂きました。それまでのお寺さんとかかわりといえれば、お盆

に田舎のお墓参りに行くことぐらいでした。今でも、特に仏教に興味があるわけではなく、お盆とお彼岸に瑞蓮寺さんをお参りさせて頂く程度です。

こんな私が、本当に「推進員」？

ただ、子供のころから父親の実家に親戚が集まると、朝夕に「お経さん」をあげるという習慣があり、祖母が亡くなつてからは毎朝夕に父親が家で「お勤め」をしていたので自然と耳から「お経さん」が入って来ていました。意味など全く分かりませんが、身体に「お経さん」が入っているという感じがあります。その為か、今回この講座を受講するにあたり違和感なく入る事が出来ました。

第一回テーマ。なぜ、「佛法聴聞」しなければならぬのか？ 講師 近田先生

世の中の人は「世間 せけん」と「佛法」とは問題が別々だと考えている。

その為、一般の人は、世の中のことを真面目にやっていたら良いと思っていないので、「聞法 もんぼう」する必要はないと考えている。よって、「佛法」は好きな人だけが研究して、興味のある人だけが聴けば良いと思っている。これが世の中の多くの人の考え方である。

私も先生のお話を聞くまでは、そのよ

うに考えていました。しかし、先生のお話を聴いて「世間」と「佛法」は別物ではなく、「佛法」は門徒すべての人々に必要なものであると感じました。先生は「佛法」は毛穴からしみ込む」とおっしゃっていました。私の身体に入っている「お経さん」も耳からではなく毛穴からしみ込んだものではないでしょうか？

今後の講義より、もう少し深く、「佛法」について学べれば、と思います。

先生のお話は非常に分かりやすく、落語を聴いているような感じで初心者の方にも無理なく聴く事が出来ました。

次回、「お仏壇はなぜ必要か？」という分かりやすい内容なので拝聴するのが楽しみです。

奥井 好昭

「いっぺん、見直しましょうか？」というテーマで開催された、第一回の講座に対象の京都教区山城第一組、瑞蓮寺の門徒として参加しました。父親や母親を見送って、父親が瑞蓮寺にお世話になることを決めておりましたので、必然檀那寺と言うことで以後お世話になり、何も知らない門徒として御厄介になっております。

唯、個人としては仏様、神社の前で、頭を垂れ、手を合わす心さえあれば、それで良いのだと自分に言い聞かせており

ます。

今回講座のお話の中で、「世間のことをまじめにやっていたらよいのに、その上「聞法せよ」と言われても…」と有りました。生きていけると云うことは脈があると云うこと。死なないでいけると云うことは、生きた死人。身体が脈を打っているのに、心はどうなんだ。念仏を申すと私の中に定着し、私の中から働きを表すと。その場で分かっていると思つても、本当に分かっているの？と自問自答しております。

気儘に歳を重ねてきたものとしては、何もかも素直に吸収できる若さが今更ながら羨ましく、じっくり物事を考える力が落ちたなど慨嘆しています。講師の先生には申し訳ない幸いです。

この機会を与えられたことを感謝しつつ、後の講座で何か一つでも理解できたらと思っております。

玉垣 和子

本山指定「推進員養成講座」というタイトルの、重いものを感じましたが「いっぺん見直しましょうか？」という言葉に誘われて、受講してみようと決心しました。

東京池袋のお寺から来られた近田昭夫先生のお話は、お経の中から、作家の

言葉から、先生の日常生活から等々、いろいろなところから飛び出し、ユーモアを交えながら進み、アツという間に一時間が過ぎました。後には漠然としたものが残り、何を理解したかと聞かれても今のところ答える事ができません。

先生のお話をお聴きした後の班別座談会で、先生のお話の内容を、各々自分の生活に戻して話し合い、考えられたのはとても良かったです。

これからも続けてお聴きする事により、何かを掴み、今後の生活に生かして行けたらなあと思います。

第二回目の講座が今からとても楽しみです。

北村 恭一郎

生きた死人にならないこと。体が脈を打っていますか、心が脈を打っていますか。この心が脈を打っていますか」と話された近田先生のことばは強く心に響いた。来てよかった。

私のようなお念仏がしっかりと唱えられない者がこのような講座に来るべきか迷ったが。テーマである「いっぺん見なおしませんか？」今いる処を見つめなおす。今見なおすことが少し出来そうだと思えた。また、真宗の寺はお教えを聞きに来られる人が仏法を聴聞に

来られる。と云われ他の宗派とは違います。と話され、また少し見直すことが出来る。

近田先生のお話しはわかりやすく、また楽しい話でした。次回も続けて出来るだけ参加していきます。ありがとうございます。

報恩講のお知らせ

十一月十一日 日

報恩講を勤修します

引き続き帰敬式を執行します

二時 お勤め

三時 帰敬式

内にて法話

住職

四時 お斎

【お磨きのお知らせ】

報恩講に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

十一月八日 木 午前九時より

推進員養成講座のお知らせ

前期講習

第一回 十月 六日 土 終了

第二回 十二月 一日 土

平成二十五年

第三回 一月十九日 土

第四回 二月 九日 土

第五回 三月 二日 土

後期講習

第六回 六月 七〜九日 金〜日

ご希望の方は瑞蓮寺にお申し込み下さい。

編集後記

晩秋のころとなりましたが如何お過ごしでしょうか。

早いもので、帰敬式を受式して一年と成ります。この間に瑞蓮寺は言うに及ばず、山城第一組・門徒会・京都教区等の行事に参加させて頂きました。そこで、他の寺院の住職や門徒さん方と親しくさせて頂き、実り多い一年でした。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。  
<http://www.zuirenji.net/>